

【中学部 美術 実践の概要】

- 中学部2年 美術 (単一障がい学級)
- 本時の題目：「おもしろ野菜を描くための模様を練習しよう」
- 本時の目標：
 - ・2つの模様の描き方がわかり、描くことができる。(知・技)
 - ・画材の使い方を工夫して、描き方を構想することができる。(思・判・表)

授業者のねらいとしては、「パターン化した塗り方をする傾向がある生徒が多いので、模様の描き方や塗り方を示し、自分が用いたい技法を見つけ、表現の仕方を広げるようにしたい」というものであった。授業では、「ストライプ」と「ドット」の2種類の模様の描き方を示し、それを参考にしながらも、自分らしい描き方で描くという活動を行った。1つの模様を全員が描き終わると、前に貼り、感想を伝え合うといった活動を行うことで、他の生徒の作品も参考にして、自分の好みの模様の描き方を学習するものであった。

【良かった点・工夫されていた点】

- ポイントとなる点は、黒板以外のボードに示し、教師の説明を最小限にしたことで、活動時間を長く確保でき、生徒が集中して活動に取り組む姿が見られた。
- 全員の作品を前に貼り、全員で感想を伝え合う活動を行うことで、生徒から「〇〇くんの作品は、水玉の形がバラバラで面白い」、「〇〇くんの作品は、細かく描かれていてすごい」といった意見が出た。生徒の自己肯定感の向上につながるものとなっていた。
- 対象生徒は、ストライプの中にドットを描くという描き方だったが、教師が意図的に作品を鑑賞する時間を設けたことで、他の人の作品を見たり、自分で描いた作品を見なおしたりした。「シンプルに描く方がきれいに見える」という発言をして、それからは、1つのデザインを細かく丁寧に描く様子が見られた。
- 「こんな感じかな」、「〇〇くんのおもしろい」、「見てよ、うまいでしょ」、「それって、どうやって描いたの」といった言葉が活動中に多く聞かれ、子どもたちが主体的に取り組み、友だちの作品を参考にしながら、よりよい作品を作ろうとする姿が見られた。
- 教師がイメージしやすいように、野菜のイラストを用意していたことで、対象生徒は、「次の授業では、野菜の中にドットの模様を描く」という発言があり、見通しを持って活動に取り組むことができていた。
- 絵を描くことに苦手意識がある生徒もいるので、絵具を使わず、墨汁のみを利用し、綿棒や割り箸といった日頃は使わない描画材料を用いるなどの工夫をしたことで、生徒たちが、「次はこれを使って描きたい」、「〇くんが使っているのを私も使いたい」と発言するなど、活動に没頭する姿が見られた。

【課題】

- 少し時間が足りず、振り返りの部分の時間を十分に取ることができなかった。

【助言】

- 途中で全員の作品を鑑賞する時間を設け、その中で、感想を述べる時間があってよかった。しかし、授業はめあてと振り返りが対になるべきなので、めあてに対して、生徒たちが何がわかり、何ができるようになったか振り返る時間が取れるように、時間配分をすること。

【総括】

教師は「どうすれば、生徒たちが自分から描きたいと思えるようになるか、絵を描くことに没頭するにはどうすればよいか」ということを念頭に、様々な試行錯誤を行いながら、授業を行っていた。その姿勢が生徒たちが苦手意識を感じず、みんなと意見を出し合いながら、様々な描画材料を用いて、楽しく模様を描く姿につながっていた。また、対象生徒は、最終的にどんな絵を描くかをイメージし、「こうした方がいいかな」と自ら工夫しながら描く様子が見られた。生徒たちが描きたいという姿の見える主体的で、生徒同士で伝え合う姿の見える対話的な授業であった。自ら工夫しながら描くことに没頭している姿も見られたので、今後は、めあてに対して振り返りができる時間を確保し、学びを言語化し、見取りができるようにするとよい。